自己免疫疾患系分野

慢性関節リウマチ、炎症性腸疾患患者の妊婦、出産

1．概要

慢性関節リウマチ（RA）や炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）は女性に多い。従来は疾患に罹病した女性は妊娠をあきらめていたが、最近の治療法の進歩により、妊娠・出産が可能となってきた。一方、妊娠時に使できない薬剤もあり、これらの管理法を膠原病内科、リウマチ科、産婦人科、小児科、薬剤師が横断的に議論し管理指針を作成することを目的とする。

2．疫学

女性 RA 患者は 50 万人存在し、20 歳代、30 歳代があわせて 17.5 万人存在する。

女性潰瘍性大腸炎患者は 5 万人存在し、20 歳代、30 歳代があわせて 2.4 万人存在する。

女性クローン病患者は1万人存在し、20 歳代、30 歳代があわせて 0.45 万人存在する。

抗 TNF α製剤が出現したことにより、約 20 万人の患者が妊娠、出産の可能性がある。

3．原因

詳細は不明であるが、いずれも自己免疫疾患と考えられる。

4．症状

RA は代表的な膠原病の1つで、関節痛や関節の変形が生じる。RA 患者が妊娠すると病状は軽快するが、出産後は憎悪する。

IBD は潰瘍性大腸炎（UC）とクローン病（CD）に大別されるが、いずれも下痢、腹痛、血便、発熱などが認められる。UC は妊娠中の再燃率が上昇するが、CD は妊娠中の再燃率は不変である。

5．合併症

妊娠時に RA、IBD が再燃すると、流産や早産、低出生体重児のリスクが高まる。

6．治療法

RA に関して使用されているメソトレキセートは妊娠中、禁忌であり使用できない。また NSAID も妊娠後期には禁忌となる。IBD の治療としてサラゾスルファビリミジン、メサラジン、副腎皮質ステロイドが代表的な治療法となる。近年、RA、IBD とも抗 TNF α抗体を用いた抗サイトカイン療法が標準となりつつある。

7．研究班

関節リウマチ（RA）や炎症性腸疾患（IBD）罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成に関する調査研究班

（研究代表者）齋藤　滋

（分担研究者）森信　暁雄、村川　洋子、松井　聖、渡辺　守、鈴木　康夫、牧野　真太郎、藤田　太輔、川口　晴菜、武井　修治、宮前　多佳子、高橋　尚人、中島　研、関根　道和、村島　温子、

渥美　達也、奥　　健志